

令和5年度 岡山県立矢掛高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年6月22日(木) 14:05~17:00

場所 矢掛高等学校 会議室

司会 田中

書記 吉岡

【委員】

入野 晶彦	地域住民(山陽新聞矢掛支局支局長)
奥村 美恵	地域住民(矢掛高等学校地域協働活動コーディネーター)
小野 秀明	学識経験者(矢掛中学校校長)
金子 晴彦	地域住民(前矢掛町観光交流推進機構理事長)
檜崎 裕志	地域住民・学識経験者(元中学校校長, 矢掛高等学校同窓会副会長)
田尻 佐知子	保護者(矢掛高等学校PTA会長)
藤原 立志	地域住民・学識経験者(元小学校校長, 矢掛高等学校同窓会副会長)
堀 賢一	地域住民(矢掛町役場総務防災課課長, 元矢掛高等学校PTA会長)
堀 伸二	地域住民(備中西商工会矢掛地区代表理事, 矢掛町観光交流推進機構理事長)
宮本 浩治	学識経験者(岡山大学大学院教育学研究科准教授)
高月 秀人	矢掛高等学校 校長
田中 宏和	矢掛高等学校 教頭
瀬尾 洋司	矢掛高等学校 事務長
吉岡 雄志	矢掛高等学校 主幹教諭, ESD課長
植田 雄介	矢掛高等学校 教務課長
岡野 太郎	矢掛高等学校 生徒課長
横溝 清明	矢掛高等学校 進路課長

【次第】

1 開会

- ・校長挨拶
- ・自己紹介
- ・学校運営協議会規則の説明

2 会長・副会長の選出

3 会長挨拶

4 説明

- ①本日の日程
- ②学校生活の概要

5 協議

- ①令和5年度学校運営計画及び組織編成
- ②令和5年度学校予算
- ③教育課程及び年間行事予定

- ④学校評価書の具体的計画と達成基準について
- ⑤「高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業」について
- ⑥矢掛高校の今後の方向性について
- ⑦その他

6 連絡

- ①今後の運営協議会について
 - ・第2回：11月7日（火）
 - ・第3回：2月20日（火）
- ②その他

7 閉会

- ・副会長挨拶

【議事録】

1 開会

・校長挨拶

11名の委員で行う。

入野委員，田尻委員を紹介。

学校運営協議会と学校評議員との違いを理解してほしい。

・自己紹介

委員が順に自己紹介。傍聴人も自己紹介

・学校運営協議会規則の説明

第4条，第9条の確認

2 会長・副会長の選出

立候補なし。堀賢一委員が会長に檜崎委員，副会長に藤原委員を推薦。→了承

- ・会長：檜崎
- 副会長：藤原

3 会長挨拶

委員がしっかり意見を言うとともに責任を持ってほしい。この春の卒業生も成果を出してくれた。

生徒の成長のサポートをしていきたい。

卒業生が矢掛高校でよかった，あの先生に会えてよかったと言えるような環境整備をしていきたい。

そのためにも意見を言ってほしい。

4 説明

①本時の日程（教頭）

②学校生活の概要（校長）

生徒数は計295名。1967年卒の方の卒業アルバムをみると，その当時の矢掛高校は1000人規模の高校だった。生徒数が少なくなることは心配していない。生徒が「矢掛高校に来てよかった」，地域の方が「町に矢掛高校があってよかった」と思える学校にしたい。地域にとって，必要不可欠な学校にし

ていきたい。

スクールガイドを使って説明。3つのコースを通じて、それぞれの興味関心に合わせた指導。地域からの学びが特徴。課題解決型学習を通じて自己有用感を高め、社会で生きていける力をつけてほしい。普通科探究コースは学力を伸ばすことが第一。少人数編成、ESD 探究、菌っ子だっぴの説明。普通科総合コースは地域における体験的学習やかげ学が特徴である。生徒が自分の成長を実感できているかが不明。やかげ学のブラッシュアップが必要。ルーブリック評価の説明。地域ビジネス科はコミュニケーション能力の向上、社会人としての基礎を育成。商品開発が特徴。スクールガイド説明。全国募集説明。

5 協議

榎崎会長から伸びる矢高・伸ばす矢高の由来について説明

①令和5年度学校運営計画及び組織編成（高月校長）

学校要覧を用いて説明。探究コース：探究する力，学力を伸ばす，総合コース：協働する力，発信力を伸ばす，地域ビジネス科は人間関係形成力を伸ばす。矢掛高校に来てよかった，自分はこのように伸びたと思う実感が大切。内側（矢掛高校の教育力）を満たす（上げる）。人手が足りないと思う瞬間が多い。

②令和5年度学校予算（瀬尾事務長）

8ページ資料の通り

③教育課程及び年間行事予定（植田）

学校要覧で教育課程を変更。9ページ，10ページ資料の通り

④学校評価書の具体的計画と編成基準について（吉岡）

資料を用いて説明。

進路課の取り組みについて，保護者との面談の回数はどうか。（榎崎会長）

→年間3回は確保している（横溝）

学校自己評価アンケート①のコース間，学年間の差について，学習時間をどのように確保していくか，大学との連携促進について（藤原副会長）

→オープンキャンパスや面談などを充実させている。（横溝）

→OJTで授業改善の推進，スタサプなどの自学自習教材を充実させている。（吉岡）

→総合コース主任を任せ，縦のつながりを強めている。（吉岡）

→特別支援コーディネーターの立場から困ったときに手を挙げられるよう指導している。（岡野）

⑤高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業について（吉岡）

資料を用いて説明

地域共同活動コーディネーターの役割が重要となっているがどうか（榎崎会長）

→SNSなどは反響もありよいと思う。続けていきたい。（奥村）

⑥矢掛高校の今後の方向性について（高月校長）

- ・呼び込む広報から，内側を満たして（在校生の成長・満足度を高める）外に発信する広報への転換。
- ・少人数体制の維持
- ・授業力向上への取り組み。それぞれの生徒のニーズをくみ取る。

- ・探究コース，総合コース，地域ビジネス科の特徴を活かす。
- ・課題解決型学習への転換。やりがい，成長を実感するカリキュラム開発。
- ・スタディサプリの活用法を検討中。
- ・体験的地域学習のブラッシュアップ。
- ・町に開かれた形の文化祭の実施。
- ・中高合同の体育大会をいずれ実施したい。
- ・矢掛高校に進学することが子どもたちの進路にどのようなメリットを生むかを周知する。
- ・矢掛町への要望事項（全国募集に伴う補助金，学習スペース）

⑦その他

HPの在り方を見直したほうが良いのではないかと。SNSの活用など（入野委員）
→HPは大切な情報発信のツールであると考えている。検討させてもらう（吉岡）

なぜ，飯野高校を選んだのか。多くの事例から矢掛高校に合うものを見ることは参考になる。
（金子委員）

→市の規模，学校の規模が近い，高校魅力化推進室からの推薦があった。飯野高校での研究を学ぶことで，活路が見いだせるのではないかと。（高月）

具体的な内容が話されており安心した。実現化していくと変化があるのではないかと。
矢掛高校は町にとって大切なピースである。（堀伸二委員）

学校の変化に驚いている。商工会や町の方のサポートに感謝している。
スタディサプリアなどを使っていない生徒がいるのではないかと（田尻委員）
→教員も研究途中である。他校の先進事例の研究や取り組みせ方の研究も必要である。
志望理由や検定の勉強などもある。どう使うかを研究していく（横溝）

やかげ学の充実のために教員や実習先の負担が増えるとやかげ学のブラッシュアップにはならないのではないかと。（田尻委員）

→負担があまり増えないような状態でブラッシュアップを考えている。
外部からサポーターのような方に来ていただくと助かる。

矢掛町における12年間の教育理念が固まればやかげ学がよりブラッシュアップされる。（吉岡）
→主体性が低下している。困り感を感じさせ，成長を促したい（岡野）
→教員数の増員（やかげ学担当）を町に要望している。（高月校長）

中学生の時に矢掛高校のことを知る機会が増えると矢掛高校への進学者が増えると思う。

1，2年生の時から保護者の方に話す機会があるとよいのではないかと。
少人数制，近さ，大人と会話できる環境は魅力である。（田尻委員）
→新しい視点でありがたい。参考にさせていただく（吉岡）

校長のビジョンには賛同する。しかし，進学実績のない学校は選ばれない。やかげ学を通じて，さらに興味が高まるカリキュラムになっているかどうか，例えば商業の簿記の意義を感じられるものになっているかを考える必要がある。保護者はHP，中学生には紙媒体が効果的ではないかと。（宮本委員）
→やかげ学がゴールではなく，ハブとなるような位置づけを考えたい。（吉岡）

矢掛高校からの要望書を精査し、役場としても支援をしていきたい。(堀賢一委員)

「存続」に向けて100名の基準が足かせとなっている。声を上げていく方法を考えていきたい。

(入野委員)

6 連絡

①今後の運営協議会について

第2回：11月7日(火) 第3回：2月20日(火)

②その他

なし

7 閉会

副会長挨拶

生徒が気づけていないことに気付かせるのは教員の仕事である。

教員のアドバイスが生徒の成長につながる。